

枕草子 第三回

その三 正月（続き）

宮廷の女官たちの位が改まる女叙位にょじいの式が行われ、貴いお方の子女が絹の布などを賜る女王祿おうろくの儀が行われる八日には、そういう方々が、喜び勇んで走らせる車の音が、ひとときわ高く聞こえて面白い。

もち粥のお膳をいただく節供せちくを終えたあと、みんなで、それでお尻を打てば子どもが産まれると言われている、お粥を炊いた木切れを後ろ手に隠し持って、位の高い女房の御達おたちさまがたがようすを見守るなかを、うっかり打たれたりなどしないよう、それぞれが後に気を配っていたりするようすが、なんだかとても面白い。

なのはどうしたことか、お尻を打たれてしまったりする子がいたりするのが面白く、そんなようすがいかにも絵になって目をひき、きゃあきゃあと、大きな声を上げて笑い合ったりもするので、打たれた子が、悔しく思うのは当たり前。

新たに通って来るようになった婿君を、宮中にご案内するのが待ち遠しくて、いまかいまかと待っておられる姫君の後を、自分こそが打とうと、一人の女房が何気なくようすを覗き込んだりなどして、そわそわしながら奥の方でひそんでいるのを、その前を通った人が気付いて思わず笑い、シート、そんなに騒がないでよと、そつと言って制したりするのに、お姫さまの方はそれさえ気付かず、ぼんやりおっとりとしておられたりするの面白い。

そこで女房が、ここにある物をお渡しいたしますね、などと言いながら走り寄って後ろを打てば、そこにいた人たちみんなが大笑い。そばにいた男君もつい微笑んだりなどするけれど、姫さまはそれほど驚くようすを見せず、それでも、顔が少しポツと赤くなったりするのが、とっても可愛い。

そんなふうには、たがいに打ち合いっこをして、なかには、男の方さえも打ったりする人がいたりするのは、一体、どういうおつもりでしょう。かとおもえば、打たれて泣き出したり、腹を立てて人に恨み言を言ったりする人がいたりするのも面白い。いつもはちゃんとしていなくてはならない貴い宮中だけれども、今日ばかりは、堅苦しいことはなしにして、みんなで大騒ぎ。

また正月には、新たにお役目が任じられる除目じもくも行われ、そのときの宮中の内裏のようすも、これまた大変面白い。雪が降って、水が凍ったりするような寒い日に、就かせてもらいたいお役目をお願いしようと、あらかじめしたためてきたもろしふみ◆申文を持って、四位や五位の、心持のしっかりした若いお方が、急ぎ歩くようすなども、なんだか妙に頼もしくて、なんだか爽やか。

でも、老いて白髪頭になった方までもが、誰かに口をきいてもらって、宮中にお部屋を持つ女房の◆局つぼねのところに行き、自分がどれだけ賢くてどんな役にたつかなどを、一生懸命に話したりもする。けれど、そんなようすをまねて、おっきの若い◆女子おなごたちが影で笑いながらからかっていることなど、老人は知るはずもなく、くれぐれも陛下によるしく申しあげて下され、皇太子さまにも、どうぞよろしくお伝えください、などと一生懸命に言っておられる。

それが功を奏して、良い役職を得られればいいけれど、もしそうならなかったら、なんと哀れなことでしょう。